

まちの活動における副次的コミュニティ形成と空間利用の連動性

一日本橋地区のラジオ体操会場を対象として一

宇野研究室

4111013 内田泰成

第1章 序章

1-1. 研究背景・目的

3. 11 の復興では地域内のコミュニティに関する問題が浮き彫りとなった。主な要因として、①復興プロセスのなかで避難所・仮設住宅内で今まで形成されたコミュニティが分断すること②人々の集まる公共空間が不足していることが挙げられる。このため、コミュニティの復元力のためには日常的な地域活動の必要性が不可欠であると考ええる。

そこで、日常的な地域活動として頻度の高いラジオ体操の会場を調査対象とした。ラジオ体操は本来、健康維持のために行う人が多いが、結果として集まった人たちとの間にコミュニティが生まれることがあるのではないかと考えた。本論ではこれを副次的コミュニティ形成と呼ぶ。ラジオ体操が地域内のコミュニティ形成にどのように寄与しているかを把握、また会場の空間利用との連動性を調査し、副次的コミュニティ形成の有用性を明らかにすることを目的とする。

1-2. 副次的コミュニティ形成の定義

コミュニティ形成を前提・目的としていないが、時間が経つにつれ自然と人との繋がりが生まれるという行動を副次的コミュニティ形成と定義する。(表1)

1-3. 研究対象

東京都中央区日本橋地区(行政区分)を対象とする。日本橋地区では夏季を含めると8会場でラジオ体操が行われている。その中で通年で開催されている5会場(A)堀留児童公園、(B)有馬小学校前、(C)龍閑児童遊園、(D)久松小学校、(E)浜町公園(図1)と各会場でラジオ体操に参加している方々を対象とする。参加人数はそれぞれ(A)約14人(B)約60人(C)約6人(D)約30人(E)約90人である。

1-4. 研究方法、構成

各ラジオ体操会場の参加人数、年齢層、コミュニティ形成に関する状況をアンケート・ヒアリングによって調査・集計し研究を進める。質問事項は次の通りである。Q1. 年齢 Q2. i) ラジオ体操を始めて何年目か ii) 週に何回参加して

▼表2 アンケート結果

	Q3: ラジオ体操に参加する一番の目的は何ですか。					Q4: ラジオ体操に参加して得られた効果は何ですか。(複数回答可)				
	1 健康維持	2 規則正しい生活	3 気分転換	4 人との交流	5 互いの健康確認	1 健康維持	2 規則正しい生活	3 気分転換	4 人との交流	5 互いの健康確認
堀留児童公園	7人(70.0%)	2人(20.0%)	1人(10.0%)	0人	0人	8人(28.5%)	5人(17.9%)	4人(14.3%)	7人(25.0%)	4人(14.3%)
有馬小学校前	8人(61.5%)	3人(23.1%)	1人(7.69%)	1人(7.69%)	0人	8人(30.0%)	5人(18.5%)	3人(11.1%)	7人(26.0%)	4人(14.8%)
龍閑児童遊園	5人(100%)	0人	0人	0人	0人	5人(33.3%)	5人(33.3%)	1人(6.67%)	4人(26.7%)	0人
久松小学校	10人(71.4%)	4人(28.6%)	0人	0人	0人	13人(35.1%)	4人(10.8%)	3人(8.11%)	9人(24.3%)	8人(21.6%)
浜町公園	7人(58.3%)	2人(8.33%)	1人(8.33%)	2人(16.7%)	0人	12人(38.7%)	5人(16.1%)	3人(9.68%)	7人(22.6%)	4人(12.9%)
	Q5: ラジオ体操前後に行っている活動はありますか。					Q6: ラジオ体操は地域のコミュニティ形成に寄与していると感じるか。				
	はい	いいえ	活動			とても感じる	感じる	どちらでもない	感じない	全く感じない
堀留児童公園	7人	3人	タオル体操(10人)、太極拳(8人)、花の世話(4人)、ストレッチ(6人)			6人(60.0%)	3人(30.0%)	0人	1人(10.0%)	0人
有馬小学校前	5人	8人	会場掃除(5人)、花の世話(5人)			12人(92.3%)	1人(7.69%)	0人	0人	0人
龍閑児童遊園	0人	5人	—			5人(100%)	0人	0人	0人	0人
久松小学校	5人	9人	学童集め(1人)、朝食会(2人)、軽い運動(2人)			10人(71.4%)	4人(28.6%)	0人	0人	0人
浜町公園	9人	3人	テレビ体操(9人)、食事会(3人)、散歩(2人)			11人(91.7%)	1人(8.33%)	0人	0人	0人

いるか Q3. ラジオ体操に参加する一番の目的はなにか Q4. 参加して得られた効果はなにか Q5. ラジオ体操の前後に行っている活動はあるか Q6. ラジオ体操は地域のコミュニティ形成に寄与していると感じるか Q7. 家から会場までの距離(地図にプロット)

回答者は総数55人で、調査日時は堀留:10/1、有馬:9/10、龍閑:9/22、久松:10/7、浜町:10/3である。

各会場の空間分析については、コミュニティを形成するうえで有用な物、参加者の時間的推移を調査し、更にコミュニティ形成と会場の空間要素の相互関係を明らかにする。

第2章 日本橋地区ラジオ体操の会場別概要 アンケートによる分析

表2のQ3「ラジオ体操を行う一番の目的は何か」の問いで「人との交流」の回答率は0%~16.7%に対し、Q4「ラジオ体操によって得られた効果は何か」の問いで「人との交流」の回答率は22.6%~26.7%である。Q5「ラジオ体操前後で行われている活動」は散歩、ストレッチ、植栽の世話、食事会など多岐に渡る。Q6「ラジオ体操がコミュニティ形成に寄

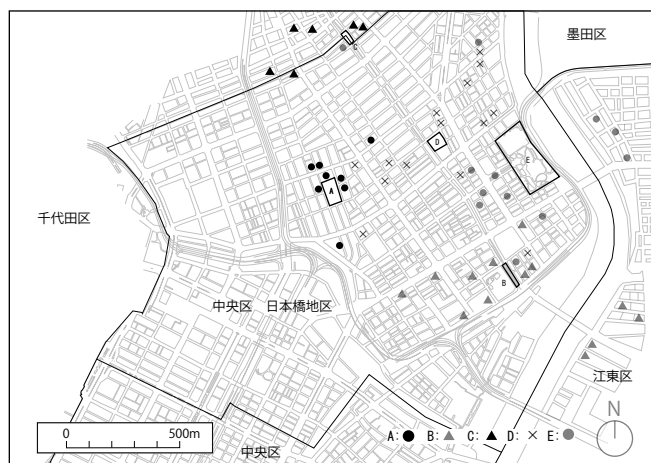
▼表1 コミュニティ形成方法の分類

コミュニティ形成あり (可能性が高い)	主要的コミュニティ	副次的コミュニティ
コミュニティ形成なし (可能性が低い)		・図書館で勉強する ・コンビニで漫画を立ち読みする ・外食をする etc..
	コミュニティ形成を前提、または目的とする行動	コミュニティ形成を前提、または目的としない行動



▲図2 会場別年代調査

▲図1 各会場の配置図



▲図3 住まいの配置図

与しているか」の問いに関してはどこの会場でも「とても感じる」「感じる」の回答が90%~100%を占めた。

多くの方が住まいに近い会場に参加するが、遠い会場に参加する人もいた。理由として、「昔からなじみのある場所に通いたいから」という回答があった。区境付近の有馬、浜町には江東区から、龍閑には千代田区からの参加もあった。(図3)

第3章 会場の空間分析

3-1. 体操参加者の時間的推移

会場内のラジオ体操を行うスペース、またその周辺の交流を深める空間要素(ベンチなど)の位置関係、また各会場で人が時間別にどう動くかを示す。(図4)

3-2. 分析

(A) 堀留→ 6:15~7:00の平均滞在人数の割合が75.5%と他の会場に比べて高かった(図5)。大きな理由にラジオ体操終了後に行う太極拳(〜6:50)があげられる。これには10~11人の方が参加する。ラジオ体操前には2~3人で鉄棒を使いストレッチする姿も見られた。公園内にある敷地面積47㎡の植栽の世話をラジオ体操前後に6~9人で行う。

(B) 有馬(D) 久松→ 体操開始直前(6:25)はそれぞれ全体数の83.9%、71.4%の人が集まるが、それ以外の時間帯(6:15~6:20、6:50~7:00)は21.6%以下と極端に低くなる。有馬は健康促進器具やベンチがなく(表3)、4~5人が敷地面積4㎡の植栽の世をするのみ(図4)。久松の会場は校庭であるため、高齢者の運動にはあまり向かない。ふたつの会場に共

通して言えることは高齢者向けの設備がほぼない。そのため参加者はラジオ体操のためだけに会場に来る傾向が強い。

(C) 龍閑(E) 浜町→ 有松、久松に比べラジオ体操開始前(6:15~6:25)に人が会場に来る割合が高い(図5)。両会場とも参加者が世話する植栽はないが、ベンチと健康促進器具があり、人が早くから集まっていた。

ラジオ体操参加者の大半が高齢者(60代以降92.7%)ということもあり、ベンチ、健康促進器具がある会場は参加者の滞在時間が延びていた。また堀留、有馬のように参加者が世話する植栽が会場にある場合も滞在時間に影響を与える。

第4章 結論

①アンケートのQ3とQ4の回答より、ラジオ体操の一番の目的は「健康維持」や「規則正しい生活」だが、結果的に「人との交流」が生まれていることがわかった。②参加者が留まれるベンチや健康促進器具がある場合と参加者が世話をする植栽がある場合は滞在時間に影響を及ぼす。よって、ラジオ体操による副次的コミュニティ形成と空間要素は、ラジオ体操前後の活動に少なからず影響を与えることがわかった。

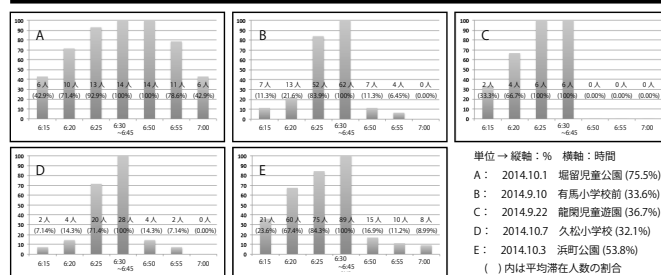
第5章 展望

ラジオ体操を通年で行っている会場は東京だけで353カ所(ラジオ体操協会より)ある。引き続き、他の箇所の研究を進めることで、来たる被災時、緊急時後のコミュニティ形成に活かせる広場の設計手法へと応用したい。

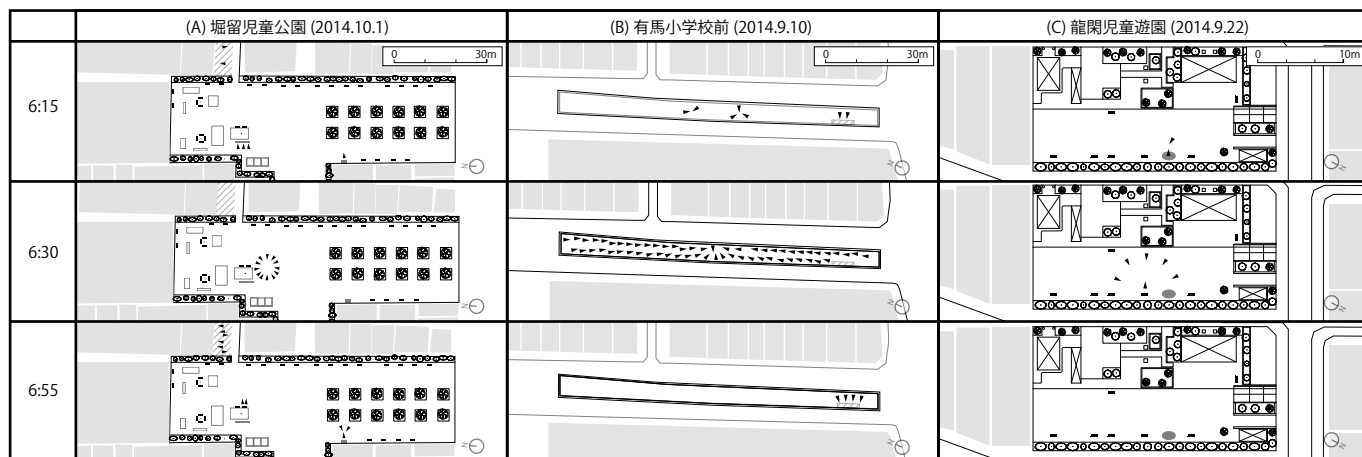
参考文献: 1) 統計研究会「ラジオ体操・みんなの体操とコミュニティの形成(地域結束力)についての調査研究報告書」 2) 村上盛直「震災 サバイバル&リカバリー・ブック」 3) NPO法人全国ラジオ体操連盟HP

▼表3 各会場の空間情報

	敷地面積(㎡)	使用面積(㎡)	植栽(樹・量)	健康促進器具	参加者が世話する植栽	ベンチ
(A) 堀留児童公園	3520	144	公園	ビロティ	○	○
(B) 有馬小学校前	555	346	高架下	高架下	×	×
(C) 龍閑児童遊園	435	90	公園	—	○	×
(D) 久松小学校	1508	782	校庭	—	×	×
(E) 浜町公園	15860	1283	公園	高架下	○	×



▲図5 各会場の参加者滞在時間の変位



▲図4 各会場の参加者分布図

▲: 人(前↑) ■: ベンチ ▨: 植栽 ■: 器具 ○: 木